

Create!Form アップデートマニュアル

[V10 → V12]

- ・ Cast
- ・ Collect
- ・ Print
- ・ PrintStage
- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client

2021年7月
インフォテック株式会社

目次

1. はじめに.....	3
2. Create!Form 導入環境.....	4
① Windows 製品のフォルダー構成.....	4
② Linux 製品のディレクトリ構成.....	4
3. 互換性に関わる項目.....	5
① 互換性に関わる項目一覧.....	5
② 互換性に関わる項目の詳細.....	5
A. 暗号化機能モジュールの変更.....	5
B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止.....	5
C. グラフ変数の縦書きフォントの扱い.....	6
D. 領域外のデータを削除する設定時の複数行データの扱い.....	7
E. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「真中揃え」「下揃え」の扱い.....	7
③ 互換設定の設定方法の変更.....	8
④ FormCollect 移行について.....	8
F. 対応フォントの限定.....	9
G. 書き出し値の末尾の半角スペースの取扱い.....	9
H. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異.....	9
⑤ 色の条件機能から条件設定への変更.....	11
I. 設定・確認方法の変更.....	11
J. 色の条件から条件設定への変更に伴う仕様差異.....	11
⑥ その他の変更.....	12
4. アップデート手順.....	14
① V12 製品のインストール.....	14
② ユーザー設定ファイルの移行.....	14
③ 互換性に関わる項目の確認.....	19
④ 帳票資源ファイルの変換.....	20
※重要.....	20
5. 元号対応.....	25
6. おわりに.....	26

1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のもとの互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または技術の変化や市場のニーズに追従する事などを目的として改良を行います。改良を行う時には従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するよう努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本マニュアルでは、Create!Form 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン : Version 10 (以下 V10 と記述)

アップデートバージョン : Version 12 (以下 V12 と記述)

※本マニュアルで、「開発環境」については Create!Form Design、「運用環境」については Create!Form ランタイム製品が導入された環境を示します。

2. Create!Form 導入環境

本章では、Create!Form V12 製品の導入ディレクトリ構成について説明します。

① Windows 製品のフォルダー構成

Create!Form V12 の Windows 製品では、フォルダー構成を旧バージョンより変更しております。旧バージョンでは1つのフォルダーで製品プログラムや設定ファイルを管理しておりましたが、V12 では複数のフォルダーで管理します。

本書で示すフォルダー名は表 1 に示すフォルダーパスに対応しており、旧バージョンで使用していたデータ編集や外字ファイルなどの「ユーザー設定ファイル」は V12 の各 Create!Form のフォルダーに移行が必要です。移行先の詳細は「4.アップデート手順」にて説明します。

表 1：フォルダー名

フォルダー名	製品導入時のフォルダーパス初期値
プログラム	C:\Program Files\Infotec\CreateForm\12
ユーザー設定(共通)	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\conf\private
ユーザー設定(ユーザー)	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\conf\system
ユーザーデータ	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\var
帳票資源	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\work
テンポラリ	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\12\temp

なお、導入環境の各フォルダーパスについては Create!Form V12 マネージャーにて下記操作により確認してください。

- ① Create!Form マネージャー画面のメニュー「ヘルプ」-「バージョン情報」をクリックします。
- ② 表示される「Create!Form V12 バージョン情報」ダイアログの「バージョン情報詳細」ボタンをクリックします。
- ③ 項目「Create!Form 情報」に表示されている各フォルダーパスを確認します。

② Linux 製品のディレクトリ構成

Create!Form V12 の Linux 製品では、旧バージョンと同じディレクトリ構成となり、製品を展開したディレクトリが Create!Form 導入ディレクトリとなります。

旧バージョンで使用していたデータ編集や外字ファイルなどの「ユーザー設定ファイル」は指定のディレクトリへコピーします。コピー先の詳細は「4.アップデート手順」にて説明します。

3. 互換性に関わる項目

V12 から一部仕様が変更されたため、出力結果やランタイムの動作において旧バージョンと差異が生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか互換性に関わる項目について説明します。

① 互換性に関わる項目一覧

[製品プログラム]

- A. 暗号化モジュールの変更
- B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止
- C. グラフ変数の縦書きフォントの扱い
- D. 領域外のデータを削除する設定時の複数行データの扱い

[PrintStage ランタイム対象]

- E. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「真中揃え」「下揃え」の扱い

② 互換性に関わる項目の詳細

A. 暗号化機能モジュールの変更

[対象]

- ・ Design、Cast、PrintStageWeb、PrintStageWeb Client

[内容]

V12 では PDF セキュリティ機能や Web クライアントセキュリティ印刷機能で使用するライブラリを「OpenSSL」に変更しました。この変更に伴い、PDF セキュリティ機能や Web クライアントセキュリティ印刷機能を使用するときは、別途「暗号化モジュール」を導入する必要があります。

[対処]

Create!Form ユーザーサポートサイト (<https://support.createform.jp/>) にて公開している「暗号化モジュール」をダウンロードして導入してください。
導入方法はモジュールを公開している Web サイトをご確認ください。

B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止

[対象]

- ・ 全 Windows 版製品

[内容]

V10 では Linux 環境へ帳票資源ファイルを転送するためのツール「Create!Form FTU」を Windows 版製品に付属していましたが、V12 では転送モードを意識することなく運用環境へ配置することが可能となったため、「Create!Form FTU」を廃止しました。

[対処]

FTP 転送ツールや Windows のファイルコピー機能を使用して運用環境へ帳票資源ファイルを配置してください。

C. グラフ変数の縦書きフォントの扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V10 では、グラフ変数の「ラベル」「凡例」「目盛」「実値」の各テキストに縦書きフォントの設定がありましたが、V12 では縦書きフォントの使用が不可になりました。

[対処]

V10 でグラフ変数の各テキストに縦書きフォントを設定していた場合、以下の互換設定で、V12 で V10 と同じ出力結果を得ることができます。

- ① V12 のマネージャーから設定したいジョブの[ジョブプロパティ]-[互換設定] タブから[互換設定]ダイアログを起動し、“ GraphFontV” にチェックを入れ、保存します。
- ② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。

または、以下の手順で互換設定を設定してください。

- ① UpToV12 の[互換設定]にチェックを入れ、[設定]ボタンから [互換設定]ダイアログを起動します。
- ② [互換設定]ダイアログの” GraphFontV” にチェックを入れ、フォーム ファイルを変換します。

※なお、上記設定はグラフ変数のフォントを横書きフォントに変更して保存を行った場合かつ元の縦書きフォントに戻す場合にのみ必要な設定となります。アップデートを行った時点では縦書きフォントが横書きフォントに変更されることはございません。

D. 領域外のデータを削除する設定時の複数行データの扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

「領域外のデータを削除する」設定を行ったテキスト変数に、複数行のデータをマッピングした場合、もしくは、「自動改行」設定により、1行のデータが複数行に折り返されて出力される場合、出力結果が以下のように異なります。

V10 (V10.0～V10.02) の場合・・・複数行のデータがそのまま出力されます。

V12 の場合・・・変数の定義領域を超える行のデータが削除されます。

[対処]

以下の互換設定で、V12 で V10 (V10.0～V10.02) と同じ出力結果を得ることができます。

1. テキスト変数の定義領域の高さをすべての行が収まる高さに上げます。
2. フォームエディターにてファイルを再度保存します。

E. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「真中揃え」「下揃え」の扱い

[対象]

- ・PrintStage ランタイム製品

[内容]

V10 では、縦書きフォントが設定された固定テキストの文字間隔を設定し、「真中揃え」または「下揃え」を設定すると出力結果が以下のように異なります。

V10 の場合・・・最終行が上にずれて描画されます。

V12 の場合・・・正しい位置に描画されます。

[対処]

以下の互換設定で、V12 で V10 と同じ出力結果を得ることができます。

1. V12 のマネージャーから設定したいジョブの[ジョブプロパティ]-[互換設定]タブから[互換設定]ダイアログを起動し、「FTextKerningV」にチェックを入れ保存します。
2. フォームエディターにてファイルを再度保存します。

または、以下の手順で互換設定を設定してください。

- ① UpToV12 の[互換設定]にチェックを入れ、[設定]ボタンから[互換設定]ダイアログを起動します。

② [互換設定]ダイアログの” FTextKerningV” にチェックを入れ、フォームファイルを変換します。

③ 互換設定の設定方法の変更

V12 では、互換設定の設定方法が旧バージョンとは以下のように異なります。

旧バージョン

CreateV○.ini に互換設定を設定します。(○は各バージョン)

V12

マネージャーから設定したい帳票資源ファイルの[ジョブプロパティ] – [互換設定] から[互換設定]ダイアログを起動し、互換設定を設定します。設定後は Form エディターにてファイルを再度保存してください。

または、UpToV12 の互換設定にチェックを入れた状態で[設定]・[互換設定]ダイアログを起動し、互換設定を設定します。

UpToV12 の互換設定にチェックが入っていることを確認し、資源を変換してください。

旧バージョンの設定方法では、環境全体に設定されるため、一度設定すると環境上のすべての帳票資源ファイルに反映されます。一方、V12 では帳票資源ファイル単位で互換設定を設定することが可能です。

また、[互換設定]ダイアログにある[INI ファイル読み込み]から旧バージョンの CreateV○.ini を指定することで、必要な互換設定を自動的に設定することが可能です。

④ FormCollect 移行について

V12 では、旧バージョンの FormCollect ランタイムにてフィールドオブジェクトとして出力していたオブジェクトを Screen ランタイムで入力フォームオブジェクトとして出力することが可能となります。

旧バージョンでのフィールドオブジェクトの各名称は以下の入力フォームオブジェクトの各名称に変更となります。

旧バージョンでの名称	V12 での名称
・テキストフィールド	・テキストボックス
・コンボボックスフィールド	・コンボボックス
・リストボックスフィールド	・リストボックス
・チェックボックスフィールド	・チェックボックス
・ラジオボタンフィールド	・ラジオボタン
・サブミットボタンフィールド	・サブミットボタン

- ・リセットボタンフィールド・・・・・・・・リセットボタン
- ・ボタンフィールド・・・・・・・・ボタン

また、FormCollect ランタイムから Screen ランタイムのオブジェクトへ変換される際に、以下の仕様が変更となります。

- F. 対応フォントの限定
- G. 書き出し値の末尾の半角スペースの取扱い
- H. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異

F. 対応フォントの限定

[内容]

Form エディター上でフィールドオブジェクトに設定できるフォント種別が変更されました。V12 の場合、以下のフォントのみ選択可能です。

- ・TrueType フォント
- ・Web フォント
- ・font-family 名指定フォント

G. 書き出し値の末尾の半角スペースの取扱い

[内容]

一部のフィールドオブジェクトで設定できる「書き出し値」の末尾の半角スペースの取扱いが変更されました。V12 の場合、末尾の半角スペースを削除しない値が書き出し値として送信されます。

対象のオブジェクトは以下の 4 オブジェクトとなります。

- ・コンボボックス
- ・リストボックス
- ・チェックボックス
- ・ラジオボタン

H. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異

[内容]

Collect ランタイムから Screen ランタイムへの移行により、以下の内容についての仕様が変更となりました。

- ・[ページのアクション]、[JavaScript 関数登録]は削除されます。
→ファイルメニュー[オプション]-[アクション]の以下のメニューが削除されます。
○ページのアクション

○JavaScript 関数登録

○すべての JavaScript の編集

- ・[署名フィールド]オブジェクトは削除されます。
- ・[アクション]、[カスタム JavaScript]は削除されます。

→サブミットボタンフィールド、リセットボタンフィールド以外の[アクションタブ]の以下の設定が削除されます。

○フォームデータの送信

○フォームデータのリセット

○フィールドの表示/非表示

○WWW リンクを開く

○ビューアメニューの実行

→テキストフィールド[検証]タブの以下の設定が削除されます。

○カスタム JavaScript を実行する

→テキストフィールド[計算]タブの以下の設定が削除されます。

○カスタム JavaScript

※コンボボックスフィールド[フォーマット]、[検証]、[計算]タブ、リストボックスフィールド[選択の変更]タブの設定は削除されます。

- ・[欧文フォント]は[MS 明朝]に変更されます。
- ・[スペルチェック]設定は削除されます。

→テキストフィールド、コンボボックスフィールド、リストボックスフィールド[オプション]タブ

- ・[編集可能]設定は削除されます。

→コンボボックスフィールド、リストボックスフィールド[オプション]タブ

- ・[送信データ形式]設定は[HTML]に変更されます。

→サブミットボタンフィールド[オプション]タブ

- ・[対象フィールド]設定は[すべてのフィールド]に変更されます。

→サブミットボタンフィールド、リセットボタンフィールド[オプション]タブ

- ・[反転]設定は[なし]設定に変更されます。

→ボタンフィールド[オプション]タブ

- ・[アウトライン]設定は[なし]に変更されます。

→ボタンフィールド[オプション]タブ

- ・[プッシュ]設定時の[押下]、[ロールオーバー]のラベル設定は削除されます。

→ボタンフィールド[オプション]タブ

・[複数行を許可する]設定が無効の場合は[スクロールを許可する]設定は削除されます。

→テキストフィールド[オプション]タブ

- ・[表示/印刷しない]設定は[表示]設定に変更されます。

→すべてのフィールドオブジェクト[表示]タブ

- ・[非表示/印刷する]設定は[非表示]設定に変更されます。

→すべてのフィールドオブジェクト[表示]タブ

⑤ 色の条件機能から条件設定への変更

V12 では、旧バージョンのテキスト変数で設定していた”色の条件”は”条件設定”に移行しました。また、色の条件から条件設定への移行に伴い、以下が変更されます。

I. 設定・確認方法の変更

J. 色の条件から条件設定への変更に伴う仕様差異

I. 設定・確認方法の変更

条件設定の設定・確認方法は以下のように変更されます。

旧バージョン

オブジェクトプロパティ内にある[色の条件]ボタン

V12

- ・ Form エディターのツールバーにある[条件設定]
- ・ Form エディターの右クリックメニューにある[条件設定の追加]
または[条件設定の編集]
- ・ 各オブジェクトのオブジェクトプロパティ内にある[条件設定]

旧バージョンで設定していた色の条件の設定は UpToV12 で資源を変換した際に自動的に条件設定へ移行されます。また、移行された設定はケース名が UptoV12_XXX(連番) となります。

J. 色の条件から条件設定への変更に伴う仕様差異

[対象]

- ・ Cast/ Screen/ Print/ PrintStage ランタイム製品
- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client ランタイム製品

[内容]

- ・ 旧バージョンとの出力差異が発生します。

→流し込み・自動改行と色の条件を併用して設定した資源を UpToV12 で資源を変換した際に以下のような出力差異が発生します。

旧バージョン

色の変更は反映されません。

V12

色の変更が反映されます。

[対処]

旧バージョンの帳票資源ファイルの色の条件を解除してから再度 UpToV12 で資源を変換してください。

または、V12 の Form エディターから該当の条件設定を削除してください。

「条件設定」機能の詳細に関しては V12 マネージャーのメニュー[ヘルプ] – [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」- 「3.10 条件設定」をご覧ください。

⑥ その他の変更

- ・ 32bit 版製品の廃止

[対象]

- ・ 全ランタイム製品

[内容]

ランタイム製品の 32bit 版が廃止され、64bit 版のみとなりました。これに伴い、上位 32bit のシステムからの DLL/COM/.Net API による API 呼び出しができなくなります。

[対処]

EXE 呼び出しまたは、JavaAPI を使用してください。

- ・ ActiveX 版 Web クライアントの廃止

[対象]

- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client ランタイム製品

[内容]

旧バージョンの Web クライアント印刷には印刷コントロールとして「CWebClient.ocx」を利用した ActiveX 版がありましたが、対応ブラウザとしては Internet Explorer のみでした。V12 では、印刷コントロールとして JavaScript 形式を用いたクロスブラウザ版が用意されました。これにより、Internet Explorer を含む複数のブラウザでの利用が可能となりました。これに伴い ActiveX 版を廃止しました。

[対処]

V12 の Web クライアント製品をご利用ください。

- 小数点一桁の廃止

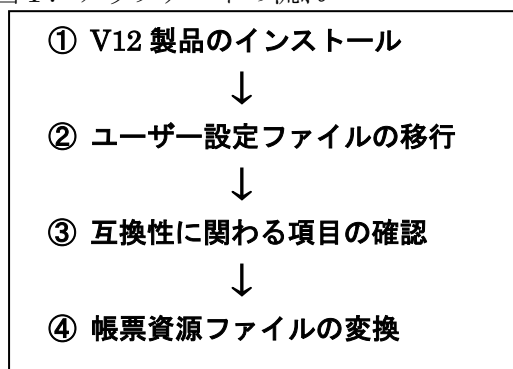
[内容]

Form エディターの各オブジェクトプロパティ内やフォーム設定ダイアログにあった「小数点一桁」を削除しました。スピンドタンは、1.000 ずつ増減します。

4. アップデート手順

本章では、開発環境へ Create!Form V12 をインストールし、アップデートする手順を示します。

図1. アップデートの流れ



帳票資源ファイルとは、フォームファイル、データマップファイル、ジョブ（スタイル）ファイルを指します。ユーザー設定ファイルとは、Design 製品を導入する開発環境、帳票出力ランタイム製品を導入する運用環境で使用する設定ファイルです。

① V12 製品のインストール

まず最初に V12 製品をインストールします。V12 製品のインストールは、V12 製品の「インストール」マニュアルに沿って行ってください。なお、V10 製品がインストールされた環境と同じ環境へ V12 製品をインストールする場合、V10 製品とは異なるフォルダーへ V12 製品をインストールしてください。

② ユーザー設定ファイルの移行

V10 で使用しているユーザー設定ファイルを V12 環境へ移行します。ユーザー設定ファイルには、次のファイルがあります。なお、運用環境への移行は開発環境で帳票資源ファイルを変更後に実施してください。

- ・ QDF ファイル
- ・ 印刷詳細設定ファイル
- ・ データ編集定義ファイル
- ・ フォント情報定義ファイル
- ・ 外字ファイル
- ・ PDF セキュリティ設定ファイル
- ・ カラーパレットファイル

上記のユーザー設定ファイルに対して V10 環境にて独自の設定を追加している場合、

そのファイルを V12 の環境にコピーする必要があります。移行先のフォルダーは「2. Create!Form 導入環境」にて説明したフォルダー名にて説明します。

1. QDF ファイルのコピー

V10 で使用している QDF ファイルを、全て V12 の導入環境へ上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で QDF エディターを使用して QDF ファイルの新規作成及び編集を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下[qdf]フォルダーに配置されている” default.qdf” ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下[qdf]フォルダーにコピーします。

■Linux 環境の場合

- ① V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に配置されている” default.qdf” ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下へコピーします。

2. 印刷詳細設定ファイルのコピー

V10 で使用している印刷詳細設定ファイル (.ppd、.spd) を、全て V12 の導入環境へ上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で印刷詳細設定ファイルを使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の [ppd] フォルダーの拡張子” .ppd” のファイルを全て、V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下 [ppd]フォルダーへコピーします。
- ② V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の [stypdd] フォルダーの拡張子” .spd” のファイルを全て、V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下 [stypdd]フォルダーにコピーします。

■Linux 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の[ppd]ディレクトリの拡張子 “.ppd” のファイルを全て、V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [ppd]ディレクトリへコピーします。
- ② V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の[stypd]ディレクトリの拡張子 “.spd” のファイルを全て、V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [stypd]ディレクトリへコピーします。

3. データ編集定義ファイルのコピー

V10 のデータ編集機能においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat、dff ファイル) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、インストール時に登録されたデータ編集とは別に、新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、ユーザー定義編集を追加していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の” EFmEdit.dat” ファイルを V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下へコピーします。
- ② V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の[dff]フォルダーの拡張子 “.dff” のファイルを全て V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下[dff]フォルダーへコピーします。

※Windows 運用環境に「EFmEdit.dat」ファイルの配置は不要です。

■Linux 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の[dff]ディレクトリの拡張子 “.dff” のファイルを全て V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [dff]ディレクトリへコピーします。

※Linux 環境に” EFmEdit.dat” ファイルの配置は不要です。

4. フォント情報定義ファイルのコピー

V10 のフォントマネージャーで PDF 用埋め込みフォント、もしくは PostScript フォントを登録して使用している場合、フォント情報定義ファイルを V12 環境へコピーします。この作業は開発環境 (Design) にて行います。なお、新規にフォントを登録していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の” fonts.dat” ファイル、
” fontnums.dat” ファイルを V12 の[ユーザー(共通)]フォルダー直下へコピーします。

※PostScript フォントを追加している場合、旧バージョンの開発環境の Create!Form 導入フォルダー直下[font]フォルダーの” user.fnt” ファイルを V12 の開発環境・運用環境に配置する必要があります。下記のフォルダーへ” user.fnt” ファイルを配置してください。

【Windows】

V12 の[ユーザー(共通)]フォルダー直下[font]フォルダーへコピーします。

【Linux】

V12 の導入ディレクトリ直下 [font]ディレクトリへコピーします。

※埋め込みフォントを使用している場合、旧バージョンの運用環境に導入したフォントファイルを V12 の開発環境・運用環境に導入する必要があります。下記のフォルダへフォントファイルを配置してください。

【Windows】

埋め込みフォントとして指定したフォントファイルを Windows の[Fonts]フォルダーへ導入します。

【Linux】

埋め込みフォントとして指定したフォントファイルを Create!Form 導入ディレクトリ直下[font]ディレクトリへ配置します。なお、環境変数「CREATE_FONT」でフォントファイルの配置ディレクトリを指定するときは、設定したディレクトリへフォントファイルを配置してください。

5. 外字ファイルのコピー

V10 で外字を使用している場合、外字ファイル (標準では EUDC.TTE) を V12 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、外字を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の[font]フォルダーの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V12 の[ユーザー(共通)]フォルダー直下の[font]フォルダーにコピーします。

※Windows の[Fonts]フォルダーの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を使用している場合は、V12 導入環境の Windows の[Fonts]フォルダーに外字ファイルをコピーします。

■Linux 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の[font]ディレクトリの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [font]ディレクトリへコピーします。

6. PDF セキュリティ設定ファイルのコピー

V10 で PDF セキュリティ設定を SEC ファイル (. sec) に登録して使用している場合、SEC ファイルを V12 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンで SEC ファイルを使用したセキュリティ設定を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の[sec]フォルダーの拡張子” . sec” のファイルを全て、V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下[sec]フォルダーにコピーします。

■Linux 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の[sec]ディレクトリの拡張子” . sec” のファイルを全て、V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [sec]ディレクトリにコピーします。

7. カラーパレットファイルのコピー

V10 で独自の色設定を作成して使用している場合は、カラーパレットファイルを V12 の導入フォルダーに上書きします。

この作業は開発環境 (Design) にて行います。

なお、色設定を作成していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダー直下の拡張子” . plt” のファイル (カラー

パレットファイル) を全て、V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下へコピーします。

③ 互換性に関わる項目の確認

ご利用の帳票資源ファイルが「互換性に関わる項目」に該当するかどうかは、Design 製品付属の帳票資源ファイルバージョンアップツール（以後、UpToV12）で確認することができます。UpToV12 で確認できる項目は、以下の内容です。

H. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異 (p9 参照)

確認は以下の手順で行います。

1. V12 製品付属の“UpToV12”を起動します。
スタートメニューの[Create!Form V12]-[UpToV12(資源ファイルバージョンアップ)]、またはマネージャーのメニュー[ツール]-[UpToV12]より起動できます。
2. 「変換元ディレクトリ」に V10 の帳票資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
3. 「互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
4. 互換性に関わる項目に該当する帳票資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック]ダイアログが表示されます。また、V12 の[ユーザーデータ]フォルダー直下[log]フォルダーにチェック結果のログファイル“UpToV12_Diff.log”が出力されます。
5. 該当する帳票資源ファイルが存在する場合、「互換性に関わる項目」に対応した[対処]を行ってください。

[互換性チェック]ダイアログの見方

- ・ファイルリスト

互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の[チェック項目リスト]に表示されます。

- ・ fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目

「H. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異」に該当するかどうかを表示します。

[チェック項目リスト]での表示は、以下を参照してください。

チェック項目 [チェック項目リスト]での表示

H. その他 FormCollect から Screen への・・・「FormCollect 設定」

変更による仕様差異

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、チェック項目リストに「○」が表示されます。該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

※「H. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異」のチェック項目では、[ログを開く]ボタンより仕様差異の詳細を確認することができます。

④ 帳票資源ファイルの変換

帳票資源ファイルの変換作業は、互換性の問題に関わらず必ず行います。

V10 で使用していた帳票資源ファイルを UpToV12 を使用して V12 で使用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換した V12 の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送します。

1. V10 の帳票資源ファイル一式を Design V12 をインストールしたマシンにコピーします。
2. V10 の帳票資源ファイルを、Design V12 製品付属の UpToV12 で V12 の帳票資源ファイルに変換します。

※ 互換設定を設定した場合、設定ファイルが「ユーザー設定(共通)」フォルダーに「UpToV12.properties」として作成されます。UpToV12.properties には前回設定した互換設定情報が格納されており、次回 UpToV12 起動時に自動的に互換設定が反映された状態になります。ただし、[UpToV12]ダイアログ上の互換設定のチェックボックスにチェックが入っていない場合、設定は無視されます。

※重要

- ① Print、PrintStage にて出力先とするプリンターは、予め開発環境と運用環境にインストールが必要です。また、出力先を Create!Form のプリンターID(PRTn, n≥1)で指定されている場合、V10 環境と V12 環境で同一のプリンターID に対して同じプリンターを登録することで出力先のプリンターID を揃えることができます。

V10 のマネージャーのツールボタン「プリンター」より起動するダイアログにて以下の内容をご確認いただき、V12 のマネージャーのツールボタン「プリンター」にて同じ内容を登録してください。

- 各プリンターID に登録されているプリンター名
- 各プリンターID を選択後にボタン「トレイ設定」より表示されるプリンターの給紙トレイと Create!Form の給紙トレイ番号

- ② V10 ご利用の際にさらに下位のバージョン (V4～V9) の互換設定を行っていた場合は、V12 においてもその互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては③の表をご確認ください。表に記載のある互換設定の設定方法は「3. 互換性に関わる項目 - ③ 互換設定の設定方法の変更」をご確認ください。また、各項目の詳細については対応するバージョンのアップデートマニュアルまたは④に記載されています。アップデートマニュアルは Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードしてご確認ください。

③ 帳票資源ファイル単位で設定可能な互換設定

バージョン	互換設定キー	説明
V4 以降	FontKerning	テキスト変数の文字間隔の扱い
V4 以降	TextLFMode	固定テキスト幅と領域枠の扱い
V4 以降	ImageOffset	イメージ変数の出力位置の扱い (Print のみ)
V4 以降	DataEditMode	「データ編集における数値フォーマット編集の扱い」または「空データに対するデータ編集の扱い」
V4 以降	EmptyPageMode	0 バイトの入力データの扱い
V4 以降	CSVInputMode	CSV データの最終行の扱い
V4 以降	ChangeFontType	PostScript フォントの表示の扱い (Print のみ)
V5 以降	ParaEditMode	テキスト変数の流し込み処理の扱い
V6 以降	GraphSpace	グラフ変数の間隔設定の扱い
V6 以降	TextPosMode	「テキスト変数の配置設定の扱い」または「固定テキスト文字列の上下の扱い」
V7 以降	GraphFontV	グラフ変数の縦書きフォントの扱い
V7 以降	FTextKerning	固定テキスト (プロポーショナルフォント) の文字間隔の扱い
V7 以降	FTextKerningV	文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い
V7 以降	VDateMode	日付変数の出力の扱い(※)
V7 以降	BarRotate	バーコードオブジェクトの回転の扱い(※)
V8 以降	GraphDataType	グラフデータ処理の扱い(※)
V8 以降	GraphLabelDisp	グラフラベルの段下げの扱い(※)
V8 以降	DynTextPosMode	動的オブジェクトに設定したテキスト表示位置の扱い(※)
V8 以降	EndOfSpace	固定テキストの文字間隔と位置合わせ指定時

		の出力位置の扱い(※)
V9 以降	VImgListMapping	イメージ変数のリストマッピングの扱い(※)
V9 以降	ParaEdit_Leading	行間隔 0 の流し込み処理の扱い(※)
V9 以降	FTextAreaMode	フォントサイズよりオブジェクトの領域の高さが小さい固定テキストの扱い(※)
V9 以降	ColorCondition	「テキスト変数の背景設定の扱い」または「テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い」
V10 以降	HeadCharMode	指定文字の前での開業設定の扱い(※)
V11 以降	FontKerningOmit	テキスト変数の文字間隔の扱いに対する互換(※)

④ 表中の※となっている互換設定の説明

・ VDateMode

V6

マルチフォームなどフォームが切り替わるような帳票出力の場合に、各フォームに設定した日付が異なって出力される場合があります。

V12

マルチフォームなどフォームが切り替わるような帳票出力の場合でも、同一の日付が出力されます。

・ BarRotate

V6

バーコードオブジェクトの回転を 90 度倍角以外に設定が可能です。

V12

バーコードオブジェクトの回転を 90 度倍角以外への設定はできません。

・ GraphDataType

V7

入力データの末尾がカンマの場合、データは無視されます。また、ラベル凡例の文字列末のスペースを無効とします。

V12

入力データの末尾がカンマの場合、空白データとして扱います。また、ラベル凡例の文字列末のスペースを有効とします。

- GraphLabelDisp

V7

ラベル文字列が長い場合でも、段下げは行われません。

V12

ラベル文字列が長い場合、段下げが行われます。

- EndOfSpace

V7

PrintStage の出力時、固定テキストの文字間隔、位置合わせが右の設定時の出力時の末尾に文字間隔分のスペースが挿入されます。

V12

PrintStage の出力時、固定テキストの文字間隔、位置合わせが右の設定時の出力時の末尾に文字間隔分のスペースは挿入されません。

- VImgListMapping

V8

XML 形式の帳票において、イメージ変数の複数行マッピングが無効となります。

V12

XML 形式の帳票において、イメージ変数の複数行マッピングが有効となります。

- DynTextPosMode

V7

位置合わせが真中に設定された固定テキストを動的設定すると Stage 実行時に出力位置が上に移動します。

V12

位置合わせが真中に設定された固定テキストを動的設定すると Stage 実行時に出力位置が下に移動します。

- ParaEdit_Leading

V8

行間隔 0 かつ流し込み設定時に重なって表示されます。

V12

行間隔 0 かつ流し込み設定時にエラーが発生します。

• FTextAreaMode

V8

PrintStage 実行時、フォントサイズよりオブジェクトの領域の高さが小さい固定テキストが表示されなくなります。

V12

PrintStage 実行時、フォントサイズよりオブジェクトの領域の高さが小さい固定テキストは表示されます。

• HeadCharMode

V9

改行後の行頭にスペースが挿入されません。

V12

改行後の行頭にスペースが挿入されます。

• FontKerningOmit

V10

FontKerninig 設定時のテキスト変数出力で文字間隔がわずかに長くなります

V12

FontKerninig 設定時のテキスト変数出力で文字間隔がわずかに短くなります。

5. 元号対応

V10 のデータ編集設定機能を用いて和暦の「令和」以降の元号を表示する場合、元号設定ファイル「era_jp.dat」ファイルをテキストエディターなどで作成、または修正する必要があります。

和暦設定(データ編集)が行われている資源の存在有無の確認には、以下のチェックツールをご利用下さい。

<https://support.createform.jp/download/view/533.html>

元号設定ファイルは以下の手順で作成します。

ファイル名 : era_jp.dat

era_jp.dat ファイルフォーマット : 開始日(yyyy/mm/dd),元号(漢字),元号(漢字 1 文字),元号(英大文字 1 字)

※1 行に 1 つの元号を設定することが可能です。

ex)2019 年 5 月 1 日を開始日として元号「令和」を設定する場合
2019/05/01,令和,令,R

■Windows 環境の場合

V10 の Create!Form 導入フォルダー直下に"era_jp.dat"ファイルが存在する場合、V12 の[ユーザー設定(共通)]フォルダー直下へコピーします。"era_jp.dat"ファイルが存在しない場合は新規に作成します。

■Linux 環境の場合

V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に"era_jp.dat"ファイルが存在する場合、V12 の Create!Form 導入ディレクトリ直下へコピーします。"era_jp.dat"ファイルが存在しない場合は新規に作成します。

「era_jp.dat」ファイルの詳細に関しては V12 マネージャーのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「1. インストール」・「1.3 導入環境の設定」・「元号対応」をご覧ください。

6. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ Create!Form ユーザーサポートサイト

URL : <https://support.createform.jp>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form

アップデートマニュアル[V10 → V12]

発行日 2021年7月30日 [第1版]

発行者 インフォテック株式会社